My life & Yokoshibahikari

フォト&ストーリー 私のまちと暮らし

この町だからこそできる暮らしがある。この町だからこそ見られる景色がある。
横芝光町で生まれた、十人十色の暮らしのストーリーをご紹介します。

Photos & Stories: My Town and Life
There's way of life that can be found only in Yokoshibahikari, and there are landscapes that can be seen only here.
Discover the unique stories of life in Yokoshibahikari, where each resident has found their own way to live.

My life #1

ペンション経営 下高原 聡子さん

ゆったりと過ごせる自然があり、
一緒に励まし合える仲間がいる。
そして、大好きな川や海がすぐ近くにある。
そんな場所です。



知人に誘われて始めたカヤック。
「栗山川は流れが穏やかなので、水面に身をゆだねながらゆったり過ごせるのが魅力です」

結婚を機に横芝光町で暮らし始めた下高原さん。「ここは自然が豊かな場所なので、街中で暮らしていた頃よりも、季節や天気、日の出や日の入りを身近に感じながら生活している実感があります」と話します。移住当初は、知り合いが誰もいない環境に寂しさもあったものの、宿泊組合での活動を通じて「仲間」ができました。「組合で青梅のクラフトビール『UME CRAFT』を作ったことで、仲間意識が強くなった気がします。同じ目標や話題を共有できる仲間がいるのは、とても心強いですね」

仲間との縁がきっかけで始めた趣味の一つが、栗山川でのカヤックです。以前は「やったことがないし、体力や技術が必要なスポーツ」というイメージがあったそうですが、実際には、ゆったりとした時間を楽しみながら自然を満喫できる魅力にすぐに気づいたといいます。

九十九里浜は、移住前からお気に入りのスポット。浜辺で風や水の音を感じていると心が落ち着き、見るたびに「良い海だなぁ」と感じるそうです。


自然豊かな風景に溶け込むペンションには、穏やかな時間が流れる


裸足で砂や水の感触を楽しみながら、心も体もリフレッシュ


「UME CRAFT」を共に手がけた仲間たちと語らうひととき


庭に訪れた野良猫を保護したところ、今やペンションの看板猫に



坂田城跡梅林の敷地内に咲き誇る梅の花を見つめる萩原さん夫妻。
丹精込めて手入れを続けてきた梅の木々の華やかさに心が癒されるひとときです。

My life #2

梅の花を見つめる穏やかなほほ笑み。
二人の愛情が宿る、美しい春の訪れ

梅農家
萩原朝夫さん ふみ子さん

40年以上にわたり梅の栽培を続けている萩原さん夫妻。妻・ふみ子さんの父が梅農家で、ふみ子さんがその手伝いをしていましたが、結婚後は夫の朝夫さんも携わるように。今は夫婦で90本以上の梅の木を育てています。かつて梅まつりで出店が行われていた頃は、梅干しなどの提供もしていたそうです。「うちも含め、横芝光には梅の木がたくさん。春先に花が咲くと、とてもきれいですよ」

「梅づくりで大変なのは、枝の剪定(せんてい)や青梅の出荷ですね」と朝夫さん。梅の実の出来は、「どれだけ面倒を見たか」でも変わるそう。「ちゃんと手を掛けてあげると、その分、良い梅になるんです。天候の影響などで不作になってしまう年もありますが、良い梅ができるとやっぱりうれしいですね」



梅の実を手に取り、出来栄えを確かめる萩原さん夫妻



木戸浜で孵化したウミガメの子どもを確認。
「自然環境を守るため、これからも地道に活動を続けていくつもりです」と大木さん。

My life #3

豊かな自然を次の世代へ残していきたい。
そのために、浜辺を歩き、
海の様子を見守るのが日課です。

千葉県自然公園指導員
大木清さん

大木さんは、40年以上前から地元の自然保全活動を続け、30年前からはアカウミガメをはじめ、コアジサシやハマヒルガオなど、木戸浜に息づく動植物の保全にも取り組んでいます。また、毎年、海辺の観察会を開き、木戸浜の魅力を伝える活動も行っています。「毎朝、浜辺を歩いて見回り、動植物の様子を確認するのが日課です。ウミガメの産卵の形跡を見つけたときは、卵を守る柵を設置するなどしています」。無事に卵が孵(ふ)化し子ガメが海に帰れるよう、地元の人や観光客への呼びかけもしています。

しかし、ここ数年は異常気象の影響もあり、海辺の自然環境は変化してきているそうです。「木戸浜は、多様な動植物が息づく貴重な浜辺です。この自然豊かな海と浜を、これからも大切に守っていきたいですね」



浜辺の小さな変化にも目を配ります



町内の小学校では、担当教諭に加え、日本人英語補助講師を配置し、
子どもたちが授業を通し、本格的な英語を学べる工夫を行っています。

My life #4

空港に近いまちだからこそ、国際的に活躍できる子どもたちを育てたい。

光小学校教諭 奥野 渉美さん

上堺小学校出身（令和8年4月1日に横芝小学校と統合）の奥野さんは、現在、光小学校で教壇に立ちます。クラス担任を持ち、クラスの英語の授業も行っています。

空港で働いていた母親の影響もあり、幼い頃から空港や英語に親しんできた奥野さん。「今の英語教育は、昔よりもレベルが高いです」と話します。“空港に近いまち”として、町を挙げて英語教育に力を入れている実感もあるそう。タブレットを使ったICT教育やデジタル教科書の導入などによって、より実践的でネイティブに近い英語を教えることができるようになったといいます。

「これからは国際社会の時代。英語を使えることは子どもたちの大きな強みになると思います。この学校に通う子どもたちが、将来、国や言語の垣根を越えて、のびのびと交流できるようになってくれたらうれしいです」



「今の小学生は、昔の中学生レベルの英語を習うんですよ」と話す奥野さん



屋形海岸で行われる星空観賞会。高い建物などがなく、
東南向きに空が大きく開けているという好条件により、満天の星を楽しめます。

My life #5

“当たり前の星空”も、実は“特別な魅力”になる。星空を通し、地元の人にも町の魅力を知ってほしい。

横芝光町宿泊組合 組合長 秋葉 秀央さん

かつては都内で働いていたという秋葉さん。帰郷してペンションを継ぐ際に、「来てくれた人に宿泊以外の体験も提供したい」と考え、知人の協力を得て星の観賞イベントを始めました。「当初は個人的に始めたものでしたが、町から『イベントのノウハウを教えてほしい』という声が掛かり、町と連携して星空観賞会を開催することになりました」

秋葉さんは、地元の人にも星空をはじめとする横芝光町の魅力を知ってほしいと話します。「観光は、地元の人が『この町においでよ』と思う気持ちがあることが大事なんです。当たり前にあると思っている星空でさえ、町外から人を呼べる魅力を持っています」。町外での生活を経て、改めて横芝光町の魅力を知ったという秋葉さん。「この町の自然に触れると、『生きる』ということを感じられます」



自然に触れる機会として、農業体験イベントなども行っています